

# 利賀っ子だより



R5. 3. 13

## ○ どれだけ時間が かかるのかな

1月に全校で手話の学習をしたことをきっかけに、多様なコミュニケーションの手段を学んでほしいと考え、点字版と点筆、点字の本を準備しました。

缶ジュースや電気製品に付いている点々が点字だということを初めて知ったと話す子、商品等に付いている突起が点字だとは知っていたけれども触ってみたことはなかったと何度も点字を触ってみる子、点字の他にも点字ブロックや、シャンプーのギザギザ、牛乳パックのきりかき、パソコンのキーボード等、触って分かるようになっていくものがあることを紹介する子等、点字について話をしながら、点字の本を読んだり、点字版を使ったりしていました。点字が6つの点の組合せてできていること、右から左に文字を打っていき、用紙を裏返して、指で凸面をなぞって読んでいくことは、どの子供にとっても新しい情報だったようで、自分や友達の名前を打っては、読むことを繰り返していました。

指先の感覚だけで、小さい突起の位置を判別して分かるようになるまでにどれだけの時間がかかるのだろうかとその大変さを感じたり、点訳アプリがあることを見付け、そのアプリを考え出した人の思いを想像したり、視覚に障害がある人の不便さは他にどんなことがあるのかを考えたりとそれぞれが感じたこと考えたことを話していました。直接指導するだけでなく、場を整えておくことで子供たちが自ら学び取っていく姿が頼もしかったです。



【点字で名前を書いたよ。】

## ○ 自他を大切にする子



【意見の出し方を高学年から学ぶ】

今年度の学校教育目標の「徳」は「自他を大切にする子」と掲げ、友達に優しい声をかけることを行動目標として取り組んで参りました。

先日、全校で来年度の運動会のスローガンの案についての話し合いがありました。小・中学校の代表で構成する代表委員からの提案のスローガンに対して「そこに込められた気持ちは、好き。」「気持ちの部分は、賛成。」「提案理由はよく分かる。」と受け止めながらも、「その言葉よりもこっち。」「その気持ちを表すなら・・・」等と自分の意見を述べている高学年の子供たちがいました。

大人でも相手のよさを受け止めながら、別の提案をすることは難しいですが、言葉を選びながら、そして、原案を作成した代表委員に感謝しながら発言する子供たちに感心しました。日々の積み重ねが子供たちの発言に表れていることが分かりました。利賀っ子の素晴らしい伝統として受け継いでいきたいものです。

(高田 公美)